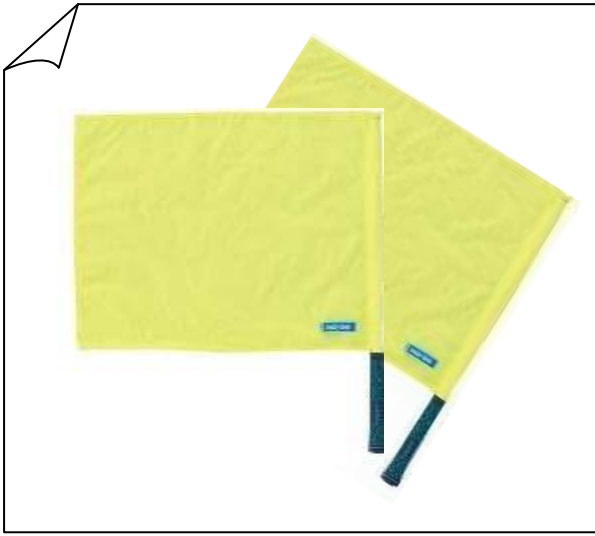




ソフトバレーボール競技規則

(抜粋)



田原市ソフトバレーボール協会

競技規則

1 チームの構成

チームは、監督1人、キャプテンを含む競技者4人と、4人以内の交代競技者で構成される。

監督、競技者を兼ねることができるが、その結果、競技者、交代競技者の数が規定を超えることはできない。

2 競技参加者の権利と義務

(1) 基本的な権利と義務

- 1) 競技参加者は、競技規則を遵守し、試合中、常にフェア・プレーの原則とその精神に基づいた行動をとらなければならない。
- 2) 監督およびキャプテンは、チームの規律について責任を負わなければならない。なお、コート内の競技者の1人は、ゲーム・キャプテンでなければならない。

(2) 監督の権利と義務

- 1) 監督は、競技者交代およびタイム・アウトを要求することができる。しかし、競技者としてコート内にいるときは、その権限を失う。
- 2) 監督は、いかなる場合でも審判員の判定に対して、異義を申し出ることは許されない。

(3) キャプテンの権利と義務

- 1) ゲーム・キャプテンは、コート内にいる間は、競技の中断中に主・副審に対して
 - ① 競技者交代およびタイム・アウトの要求
 - ② 競技規則適用の解釈についての質問をすることができる。
- 2) ゲーム・キャプテンは、試合中、ベンチにいる間はその権利を失う。この場合、コート内の競技者から代理のゲーム・キャプテンを選び、自身の交代時に主審に届けなければならない。

3 審判員とその責務

(1) 主審

1) 権限

- ① 主審は、ネットの一端に置かれた審判台の上に立ち、両方のコートがはっきり見えるような高さに位置して、その任務を遂行する。
- ② 主審は、開始から終了まで試合を主宰し、すべての役員と両チームのメンバーに対して最高の権限を持つ。試合中、主審の決定は最終である。
- ③ 主審は、競技規則に明示されていないすべての問題を決定する権限を持ち、自分が下した判定に関しいかなる論争も許してはならない。

2) 責務

主審は、試合中、次の権限をもつ。

- ① 不法な行為に対し罰則を科す。
- ② 次のことを判定する。
 - a) サーバー及びサービング・チームのポジションに関する反則
 - b) ボールをプレーする時の反則
 - c) ネット上方、及びその上部に関する反則
 - d) ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき

3) 手順

- 1 そのラリーを終わらせるためにまず「吹笛」する。
吹笛はどのような場合でも1回でよく、「強く・明瞭に」吹くよう心がける。
- 2 勝った側へ「ポイント」のシグナルを示す。
- 3 反則の種類をシグナル」で示す。
- 4 必要に応じて反則した選手を示す。



(2) 副審

1) 権限

- ① 副審は、主審の反対側で、コート外側の支柱付近に立って任務を遂行する。
- ② 副審は、ベンチのチームメンバーを監視し、その不法行為を主審に通告する。
- ③ タイム・アウトや競技者交代の要求を許可し、その時間や回数を統御する。

2) 責務

試合中、副審は、次の点に関して判定し、吹笛をして合図する。

- ① サービス時のレシービング・チームのポジションに関する反則。
- ② 競技者が、ネットあるいは副審側のアンテナに触れた場合の反則。
- ③ 相手コートへ侵入したり、ネット下方の空間で相手方プレーを妨害したとき。
- ④ ボールが、副審側のアンテナに触れるか、その外側を通過したとき。
- ⑤ ボールが、主審から見えない位置で外部の物体や床に触れたとき。
- ⑥ ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。

3) 手順

- 1 そのラリーを終わらせるためにまず「吹笛」する。

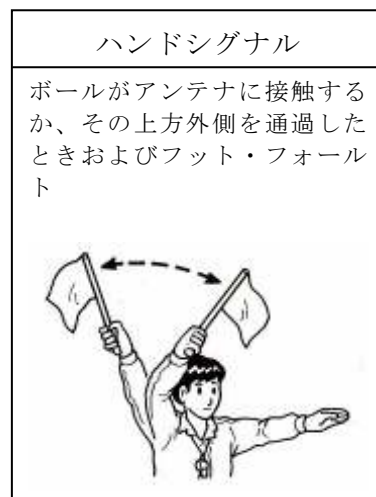
吹笛はどのような場合でも1回でよく、「強く・明瞭に」吹くよう心がける。

- 2 反則の種類をシグナル」で示す。
- 3 必要に応じて反則した選手を示す。
- 4 勝った側へ「ポイント」のシグナルを示す。



(3) 線審

- 1) 2人の線審は、ネットに向って左側のコートの両隅から、0.5～1m離れた位置に立ち、旗を使ってその任務を遂行する。
- 2) 線審は、担当するコーナーで結ばれたエンド・ラインと、サイド・ラインに関する判定、サーバーのフット・フォールトや、ボールのアウト、イン等を監視し、合図する。

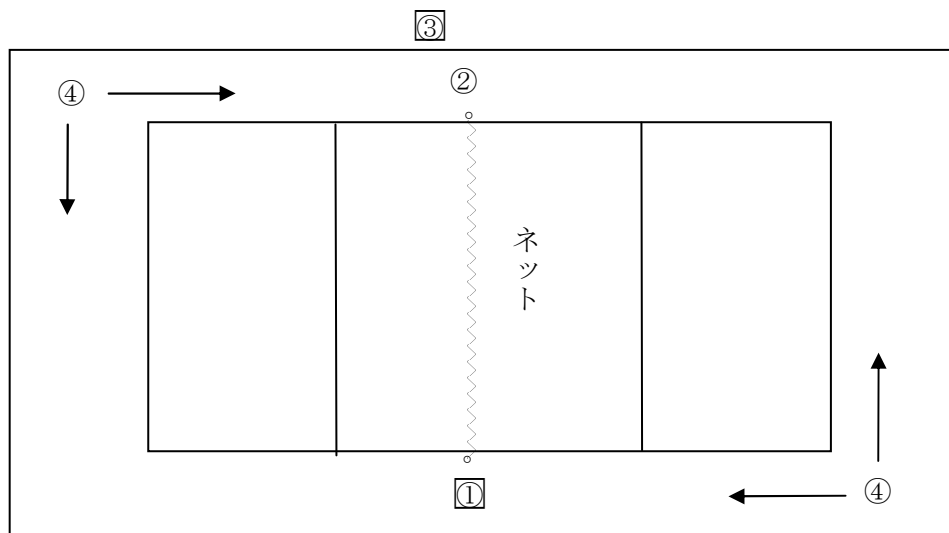


- 3) 線審は、ボールがアンテナに触れたり、その想像延長線上を通過したりその外側を通過したとき、合図する。

ハンドシグナル			
グッド 	アウト 	ワン・タッチ 	判定不能 

(4) 点示員

- 1) 点示員は点示板の左右に一人ずつ立ち、得点経過を表示する。
- 2) 試合終了時、最終結果を記録し、勝者のチーム・キャプテン、主審の署名を採録する。



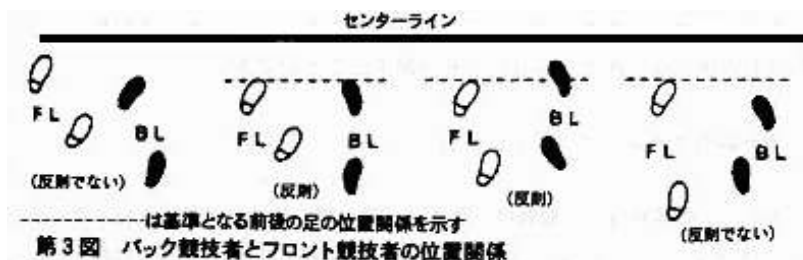
①：主審 ②：副審 ③：点示員 ④：線審



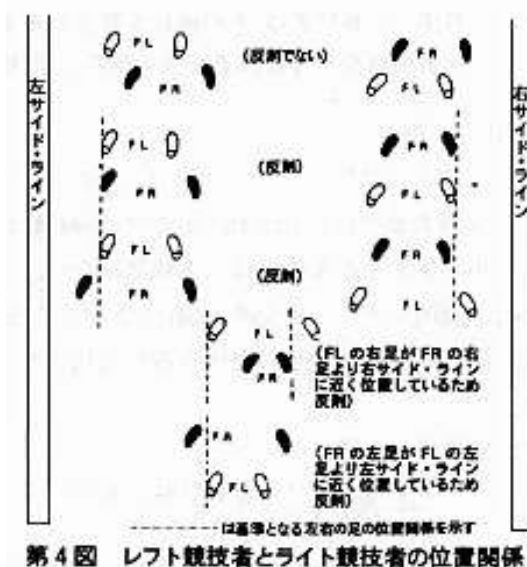
4 競技者の位置とローテーションについて

(1) 競技者の位置は、床面に接している両足の位置によって決定される。即ち、

- 各フロントの競技者の片足の少なくとも一部は、それぞれに対応するバックの競技者の両足よりも、センター・ラインの近くに位置していること。(下図)



- ライト (レフト) に位置する各競技者の片足の少なくとも一部は、同じラインのレフト (ライト) の競技者の両足よりも、ライト (レフト) のサイド・ラインの近くに位置していること。(第4図)



(2) サーバーを除く両チームの競技者はサーブが打たれる瞬間にはコート内に位置していなければならない。サービスが打たれた後は、どの様に移動してもよくプレー上の制限はない。

(3) サービスをレシーブするチームがサービス権を得た時、そのチームの競技者は時計回りに一つずつ位置を移動する。ローテーションの順はそのセットを通じて変更することはできない。

5 競技中断の要求

(1) タイム・アウト

各チームに、1セットにつき最大2回のタイム・アウトが認められる。

このタイム・アウトは、1回につき30秒とする。タイム・アウトの間、コートの中の競技者は、ベンチの近くのフリー・ゾーンに出なければならない。

(2) 競技者の交代

- 1) 各セットの競技者交代は、4回（4人）以内とする。ただし、常に**1**（チームの構成）の条件を満たしていなければならない。
- 2) 交代競技者は、1セットに1度だけスターティング・メンバーと交代して競技に参加できるが、競技から退く場合は同じ競技者としてしか交代できない。
- 3) 競技者交代は、2人から4人の競技者を同時に交代させることもできる。
- 4) 競技者交代は、サービス中の競技者に対しても許される。

(3) 要求の方法

- 1) タイム・アウトおよび競技者交代は、ボールがデットするとき、サービス許可の吹笛前に、公式ハンドシグナルを示して要求しなければならない。
- 2) 競技者交代を要求したチームは、競技が再開されないうちに連続して、競技者交代を要求することはできない。



6 コートの交替

最終セット、一方のチームが8点に達したときは、直ちにコートを交替する競技者の位置は交替時のまま引き継がれる。

交替が正しい時点で行われなかった場合、誤りに気づき次第交替する。交替が行われた時点のスコアは、そのまま引き継がれる。



7 試合の勝者

試合は3セットマッチとし、2セットを先取したチームはその試合の勝者となる。

8 セットの勝者

一つのセットは、最小限2点差をつけて先に15点を取ったチームがそのセットの勝者となる。14対14の同点になった場合は、2点リードに達するまで試合は続行される。ただし、17点で試合は打ち切れ、17点を先取したチームが1点差でもそのセットの勝者となる。

9 セット（試合）の没収

負傷などで競技者が正規にも、例外的にもできない場合には、その競技者に3分間の回復のためのタイム・アウトが与えられる。回復しない場合には、そのチームは失格となり、次のセット開始時に回復していない場合は、その試合は没収される。

相手チームに対しては、そのセットまたはその試合の勝者になるために必要な点数が与えられ、失格になったチームのそれまでに得た得点は生かされる。

10 プレー上の動作と反則

(1) サービス

サーバーは、主審のサービス吹笛後すみやかにボールを打たなければならない。主審の吹笛以前に行われたサービスは、無効となり打ち直される。

サービスのトスは、1度しかできないがボールを手中で動かしタイミングをとるため床にドリブルすることは許される。また、ボールをトスせず片方の手の平にボールを乗せたままヒットしてもよい。

ファミリーの部

- ① 小学4年生以下の競技者はショートサービス・ゾーンからすることができるが、ボールを打った瞬間、あるいはジャンプ・サービスをするために踏み切った時、そのゾーンを区画している各ライン（エンドラインを除く）を踏んだり、踏み越してはいけない。
- ② 小学生についてもサービスのトスは、1回とするが、サービス・トスしたボールがサーバーの身体に触れないで床に落ちた場合は、1回だけサービスをやり直すことができる。

ハンドシグナル

サービス許可



サービス時にボールをヒットしなかった時



サービス・ボールがネット上端に触れ、相手コートに行ったとき

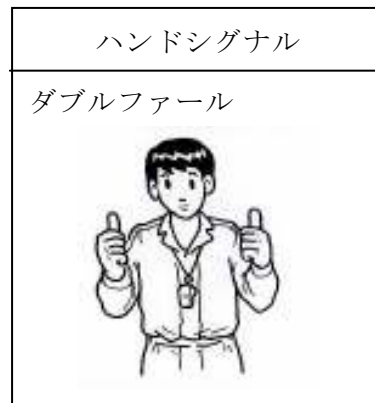


サービス・ボールがネット上端に触れ、ネットを越えないとき



(2) ボールへの接触

- 1) チームの第1回目打球のとき、ボールが身体の2箇所以上に連続して当たってもよい。ただし、その接触は、一つの動作中のものに限られる。
- 2) ホールディングやドリブルなどのボール・ハンドリングの基準は、試合のレベルに応じて緩和されることが望ましい。
- 3) ボールは、打たなければならない。つかんだり、投げてはならない。
- 4) 同一チームの2人以上の競技者が同時にボールに触れたときは、1回触れたものとし、その後、いずれの競技者も引き続いてボールに触ることができる。
- 5) 両チームの競技者が同時にボールに接触した後、そのボールがアンテナやコート外の物体に触れたときは、ダブル・ファウルである。また、そのボールがコート外に落下した場合は、落ちた側の勝ちである。



プレー上の反則とハンドシグナル

- 1) オーバー・タイムス
ネットを越えて相手方のコートに打ち返すために、ボールへの接触が、ブロックへの接触を除いて最大限3回を越えたとき。
- 2) ホールディング
ボールに接触中、明らかにボールが止まるようなプレーがあったとき。
- 3) ドリブル
ブロックの場合を除き、同一競技者が、明らかに2度続けてボールに触れたとき。



(3) アタック・ヒット

相手方のサービスしたボールを、アタック・ヒット(注1)することは許されない。

(注1) ボールをネット上端より完全に高い位置から相手に向かって送ろうとするすべての動作。

ファミリーの部

バックに位置した大人の競技者のアタック・ヒットは反則となる。

プレー上の反則とハンドシグナル

1) アタック・ヒットの反則

サービスされたボールを、アタック・ヒットしてそれが完了したとき(注2)。

(注2) アタック・ヒットの完了は、ボールがネット上方の垂直面を完全に通過した瞬間、あるいは相手方競技者にふれたとき。

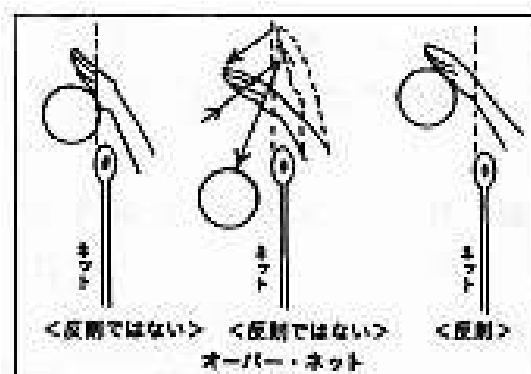


(4) ブロック

ブロックとは、競技者がネットに接近して相手方から送られてくるボールを、ネットの上端より上方で阻止する行為をいう。ブロックの形をしていてもネットの上端部より下であればブロックとみなさない。

- 1) 4人の競技者は、どの位置にいるときでも、相手のプレーの後、ブロックすることができる。ただし、オーバー・ネットは許されない。その基準は、ボールと手の接触点で判断される。

(右図)



- 2) 相手方のサービスしたボールを、ブロックすることは許されない。

- 3) ブロック後の第1回目の接触は、ブロックのときボールに触れた競技者を含めて誰にでも許される。

ファミリーの部

バックに位置した大人の競技者のブロックは反則となる。

プレー上の反則とハンドシグナル

1) ブロックの反則

サービスされたボールを、ブロックしたとき。

ハンドシグナル

ブロックの反則



(5) プレー上の反則

1) サービス順の誤り

チームがサービス順を誤ってサービスを行ったとき。

2) フット・フォールト

サービスボールを打った瞬間、あるいはジャンプ・サービスをするため踏み切ったときに、コート（エンド・ラインを含む）や、サービス・ゾーン外のフリーゾーンに触れたとき。

ハンドシグナル

フット・フォールト



3) アウト・オブ・ポジション

サービスが打たれた瞬間に、サーバーを除き両チームの各競技者が、コート外に出ているかコート内で正しいポジションに位置していなかったとき。

ハンドシグナル

アウト・オブ・ポジション



4) サービス・フォールト

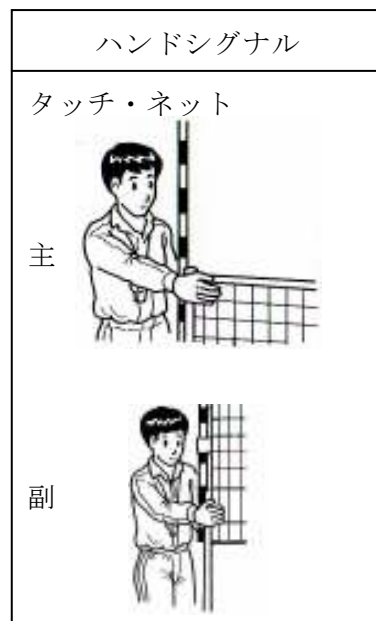
サービスされたボールが、ネットやアンテナに触れるか、相手方競技者に触れずにボールアウトになったとき。

5) タッチ・ネット

イン・プレー中に、ネットやアンテナに触れたとき。

競技者がイン・プレー中に支柱に触れてもタッチ・ネットの反則にはならない。

※相手チームのネットにかかったボールの勢いで体がネットに触れた場合は、反則とはならない。



6) オーバー・ネット

ネットによって分けられた相手コート上にあるボールに触れたとき。



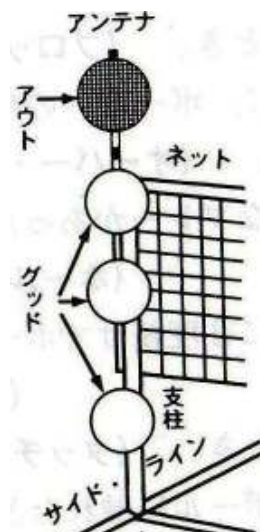
7) ボール・アウト

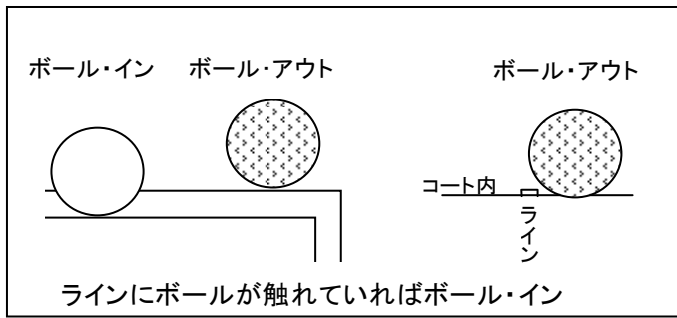
● 次のような場合ボール・アウトとなる。(右図)

- ① ボールが、コートの区画線の完全な外側の床に落下するか、コート外の物体に触れたとき。
- ② ボールが、アンテナのみに触れたとき。
- ③ ボールが、2本のアンテナ、またはその想像延長線の間を通過しなかったとき。
- ④ ボールが、ネットの下方の空間を完全に通過したとき。

● ただし、次のような場合は、その後プレーを続けることができる。(右図)

- ① ネットの上端(2m)の水平帯以下の支柱に触れたとき。
- ③ ネットとアンテナに同時に触れたとき。



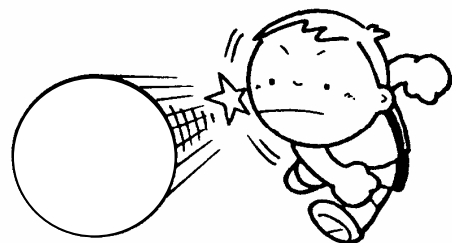


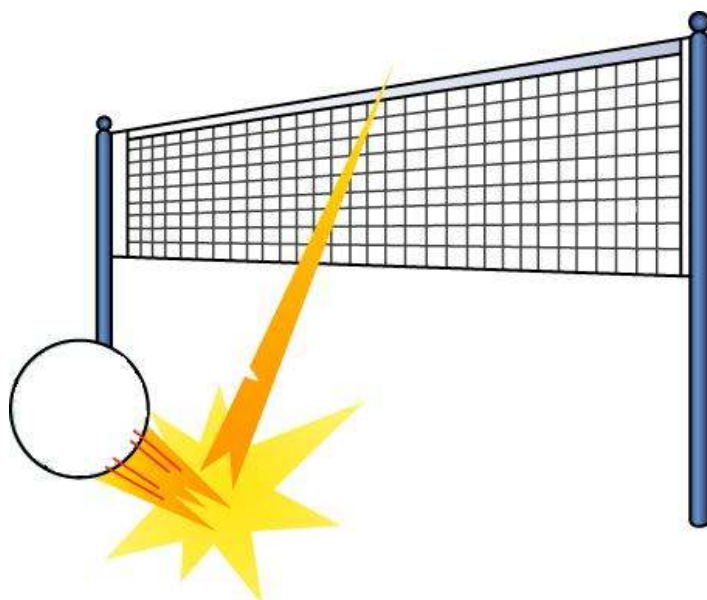
- ボールが、ネットの上方の許容空間の外側の垂直面を通過して、相手方のフリーゾーンに入った場合、取り戻すことができるルール（6人制競技規則第11条第1項2）の適用については、ソフトバレーボールの試合会場では、コート間のフリーゾーンが接近して設置されていることが多いため、従来どおりボール・アウトとして取り扱う。



8) インター・フェア

相手チームのプレーを妨害する行為があったとき。





平成 2 2 年 5 月 作成



Tahara City Soft Volleyball Association

<http://www.tees.ne.jp/~naga213>